

特集

HIV陽性者を受け入れる

調査によれば HIV 陽性者を受け入れている訪問看護ステーションはごくわずかです。現在は外来での治療が主であるとはいえ、今後高齢化や他疾患の発症などにより在宅医療を必要とされる方の増加が予想され、地方における HIV 陽性者の増加も見逃せません。HIV 陽性者の受け入れについて、今後対応できる体制を作り上げるためにはどうすればよいのかを考えます。

訪問看護実施経験率2.5%が示すこと——「訪問看護ステーションにおける HIV陽性者受け入れに関する全国調査」から 加瀬田暢子／前田ひとみ
設立からこれまで、HIV陽性者への訪問看護を通して見えてきたこと 市橋恵子
医療機関との連携——エイズ治療・研究開発センターから 島田恵／武田謙治
地方部の拠点病院から見たHIV治療の現状 木村真知子
HIV陽性者への訪問看護をどう行なうか——受け入れを開始して 丸山絹子

■特別記事

「介護支援ボランティア」制度とコミュニティづくり
——稲城市の“挑戦”から介護自給率のあり方を考える 尾崎雄

■研究報告

高齢者虐待と広汎性発達障害 細川雅人／大熊章夫

■連載

マグネットステーションインタビュー 木村憲洋／訪問看護時事刻々 石田昌宏／高齢者虐待にどう対応するか 和田忠志／イギリスの小児訪問看護の歴史と現状 多田羅竜平／わたしのことをわたしから 宮崎弘美／ほんとの出会い 岡田真紀／訪問看護ステーションの現場をあるく 川越博美ほか／萌黄色のハンカチーフ 赤川次郎

編集後記

●今年は寒いなあ、などとまだまだ冬の気分でしたところ、いつの間にやら鼻がムズムズし、目をこすりがちになっている自分がありました。ああ、もうそんな季節なのかと桜前線の接近を待つことなく、春の訪れを実感しています。ある意味においては連載が最終回を迎え、また新たな連載が開始となるのも春の訪れの一端なのかもしれません。新連載による新たな視点を楽しみにしつつ、一抹の寂しさも覚える今日この頃です。……富岡
●特集の細谷論文に、「病院ではなにも言えないさ」と、がんの痛みを訴えず「痛みなし」の患者として退院したケースの紹介がありました。訪問看護師がすぐに気づき、適切なケアが行なわれたからよかったけれど、独居のターミナルはこれからの課題です。連載「家族にできるケアの手引き」と「もの忘れを補うモノたち」が最終回となりました。2つの連載から知識を得て、いざそのときに少し備えられた気がしています。……伊藤

訪問看護と介護 第13巻 第4号 2008年4月15日発行(毎月1回15日発行)

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2008, Printed in Japan
1部定価1,260円(本体1,200円+税5%) 年ごめり予約購読料13,200円(年間12冊, 消費税, 送料弊社負担)

発行:株式会社 医学書院/代表者:金原 優/販売部:03-3817-5659/社内案内:03-3817-5600

「訪問看護と介護」編集室:直通03-3817-5787 FAX 03-5804-0485 担当:富岡・伊藤・早田

Eメール houmon@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページURL http://www.igaku-shoin.co.jp

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本紙の無断複写は著作権法上での例外を除き禁止されています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0917-1355/05/¥250/論文/JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。